

評価コメント

- ・本研究は継続することに意義がある。マンネリ化しないで新しい何かを見出すべく努力してもらいたい。
- ・コホートの維持は10年後で60%近くになってしまうという予測は、若い夫婦は転居が多いのでやむを得ない面もあると思われるが、種々の工夫と、情報提供などのインセンティブを与え続けることによって、できるだけ維持していただきたい研究である。
- ・小児の発作型(重症度)の経年的変化が明確に分かる貴重な研究である。治療のstep downとの関連を解析して欲しい。
- ・成人において、レセプト調査の活用で男女の危険因子が明らかにされたのは興味深い。
- ・成人部門では、メタボ健診から気管支喘息の関連因子として男性の高脂血症、女性のDMや薬剤の関与が発見された。地域差等の差異によって検討され普遍性が証明されれば優れた予防事業の柱となりうる。小児部門ではメルボルン等の調査より詳細なデータが得られると考えられるので、対象者の減少に配慮しながら研究を続けてほしい。
- ・成人部門についてはこのようなアプローチが行われているかの文献的考察や疫学的データを検討してほしい。小児部門ではどこまで続けるか、また治療の変遷等も長期調査では一緒に考える必要があり、その文献的データも一緒に検討して行く必要がある。両研究とも積極的に論文が投稿され、その進行にも役立っている。今後長期にわたる継続が望まれる。
- ・BMI、喫煙、腹囲などが多変量解析で有意の寄与因子でなかったことも従来の報告と異なり、なおそのメカニズムへの討論を要する。COPD(診断をレセプトによるもの。肺気腫、慢性気管支炎を含む。)との合併例においても検討できれば意義がある。
- ・喘息の長期予後を多数の症例について追跡することは大変貴重な調査研究である。この主題からいろいろな派生的なテーマが出てくる。高脂血症や糖尿病と喘息の関係についても、もっと沢山の症例について検討する必要がある。吸入ステロイドを中止できた患者の長期予後がどうなるかも是非調べて欲しい。調査途中で脱落した症例についてもできる限り連絡をとって追跡する必要がある。一例一例を大事にして信頼性のあるデータを構築して欲しい。
- ・40,000人に達するレセプト喘息を対象にして、糖代謝異常(女性でOR4.7)、脂質代謝異常(男性でOR1.45)が気管支喘息の発症リスクを増大することを示したのは日本人で新規性がある。
- ・(小児)前向き予後研究の対象者の維持にどのような配慮をしているか明らかにして欲しい。